

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

| | |
|-------|--------------------------------|
| 法人名 | 株式会社チャイルド・ピース |
| 施設名 | 小鳩スマート保育所上池台 |
| 施設所在地 | 東京都大田区上池台5-19-14ヒル サイド上池台1階 |

1. 活動のテーマ

<テーマ>

形

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

本園では、子どもが日々の遊びの中で、身の回りの素材や玩具を用いて見立てあそびやつもり遊びを楽しむ姿が多く見られる。その姿から、令和7年度園内研究主題を「自分を表現する子ども ～見立てたりつもりになったりして楽しむ遊びへの保育者の援助と環境構成～」として設定し、研究を進めている。

その中で、子どもたちはブロックを組み合わせることで形をつくったり、絵本の中の形に気づき言葉で表現したりと、形そのものへの興味や、形を使って“何かに見立てて表現する”姿が見られるようになってきた。これらの姿から、子どもが様々な形に出会い、どんな遊びが生まれるのか、どんなものが作れてどのように表現が広がるのかを、遊びの中で探求できるようにするため、本テーマを設定した。

2. 活動スケジュール

10月

- ・形で遊べるコーナーを設け、子どもが自由に遊ぶ環境を用意する。
- ・子どもの姿を写真・動画・発言メモ等で記録する。
- ・記録を基にカンファレンスを行い、子どもの姿や遊びの広がりについて共有する。

2月

- ・園内外で身の回りのいろいろな形を探す活動を取り入れる。
- ・玩具や機材を用いて形を作ったり描いたりしながら、見立て遊びへとつなげる。
- ・子どもの姿を記録し、カンファレンスで環境や関わりについて振り返る。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

ネフスピール、リグノ、ニューブロック、各種パズルなど、形の特徴が異なる玩具を複数用意した。組み合わせや構成の違いに気づけるよう環境を整えた。また、プロジェクターを活用し、子どもが作った形を大きく映し出して共有できるようにした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

【② 問いを考える】

「どんな形ができるかな？」

さまざまな形に触れる中で、子どもたちの中から自然と発想や言葉が生まれ、その時々興味や関心に気づきながら探究を深めていく。

【③環境をデザインする】

ネフスピール、リグノ、ニューブロック、各種パズルなど、形の特徴が異なる玩具を複数用意して、遊びが発展し深まることの楽しさを味わえる環境を構成をする。

【④探究活動を実践し、記録する】

形から何を想像し何に見立てて遊びが広がっていくのかという視点から、子どもたちの表現や遊びの展開について捉えていく。

子ども姿や声からどのように興味や関心を寄せ工夫して遊んでいるかを記録する。遊びの様子を写真や動画で記録する。

【⑤振り返る・共有する】

カンファレンスで子どもの姿を写真や動画で共有し、保育者の援助や環境構成について話し合い、振り返りを行う。話し合った内容を、日々の保育で実践する。記録したものをドキュメンテーションなどで保護者と共有する。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・いろいろな形の玩具を手に取り、積み重ねたり組み合わせたりしながら、自分なりに試す姿があった。

・「ライオン作りたい」と言い、「ライオンはどんな形？」「丸とギザギザだよ」と友だちや保育者と話しながら、形の特徴を思い浮かべて組み合わせる場面も見られた。

・形の向きや大きさ、色に目を向けながら、ブロックやパズルで箱型や車などを作る姿が見られた。無地のパズル面を使うなど、形そのものに関心を向ける様子もあった。

・身の回りの形を探す活動では、標識や信号、マンホールなどに注目し、「四角と三角だよ」「丸があった」と友達や保育者に自分なりの気づきを伝えていた。

・製作活動では、四角や三角を貼り分け、形の違いにも気づきながら表現する姿があった。

・プロジェクターに映し出された形や物を観て、保育者の言葉がけに応じたり、自分なりの気づきを伝えたりする姿が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもたちは形に触れ、積み重ねたり組み合わせたりしながら、自分なりに工夫して遊びを広げていた。「ライオン作りたい」と話したり、友達と形の特徴について伝え合う場面もあり、形を何かに見立てて楽しむ様子が見られた。

また、身の回りの形にも目を向け、積み木を並べたり置き方を変えたりし、置く場所を工夫して見立て遊びに広げるなどしていた。想像力を働かせながら遊んでいる姿から、子どもたちの豊かな発想力が感じられた。

友達や保育者と教え合ったり伝え合ったりするやり取りも自然に生まれ、同じ場で形に触れて楽しむ姿が見られた。今後も、子どもの興味に寄り添いながら、環境や援助を工夫し、一人一人の気づきや表現を大切にしていきたい。